

ほづみーと～meet(会う)～・オンライン

開催結果報告

1 開催日時 令和8年5月28日(木)

午後6時から7時まで

2 開催場所 オンライン

3 参加者 太田市在住・在勤・在学者 5名

4 テーマ「太田市の未来について

市長と自由に対話してみよう」

太田市の未来を考える 市長と語る

「ほづみーと～meet(会う)～
・オンライン」

太田市の未来について
市長と自由に対話してみよう

5 主な対話の内容

No.1 太田市の防災活動について

【参加者】

6年くらい前に防災士の資格を取りました。現在は地域のシニアクラブ、お茶の間カフェ、デイサービスに携わっており、防災講話や知識の共有を行っています。

太田市は障がい者養護がほかの地区に比べると劣っているため、前橋へ勉強に行ったりしています。聴覚障がいの担当をしており、楽しくクイズをしたり、新聞紙でスリッパを作ったり、ハザードマップを確認したりと雑談形式で行っています。

6月6日の防災消防フェアで、太田地区の防災士の方のブースを作っていただきました。

避難所運用ゲーム「HUG」、災害対応運営ゲーム「SUG」について東京へ勉強に行っています。災害が起きた時にすぐ行動ができるように、講師を呼んで周知させる必要があると思います。地域交流もなくなっているため、地域を見直す意味でも必要と考えます。

【市長】

手話通訳者のなり手の確保が難しい現状であります。

聴覚障がい等の方が、災害時に適切な避難ができるように、課題感を持って考える必要があると感じます。

比較的に群馬県は災害が少ない地域のため、災害に対して遠いイメージを持たれている方もいると思います。地域交流や関係性が希薄になりつつある中で、災害が起きた際に連携を取りながら身を守る行動が必要になると感じます。

No.2 ①資産運用について②公園利用のルールについて

【参加者】①

インフレや金利が高くなっていることから、少額からでも資産運用を始めた方がいいと思っています。市民の懐が少しでも豊かになれば、市の税金も増えていい循環ができると思います。金融の知識・教育は日本ではほとんど行われていないので、子供の頃から触れることは大切だと思います。

【市長】①

子供からお年寄りまで、資産運用やお金についての知識に触れる機会を作れるように考えたいと思います。

【参加者】②

私はよく運動公園を利用します。運動公園内で自転車に乗っている人や犬の散歩をしている人がいるので利用ルールが曖昧だと感じます。自転車に乗っていることや犬の散歩をしていることが当たり前のように感じます。

【市長】②

運動公園内では、自転車に乗ることも犬の散歩をすることも駄目だと認識しています。現場での聞き取りを行い、注意喚起を含めてマナーやルールについて再確認してみます。

No.3 ①教育について②移住について③図書館について

【参加者】①

3児の父であり、東京から太田に移住をしてきました。今後の教育方針について市長の意見を聞きたいです。

また、外国籍の方や障がいをお持ちの方との間に教育の差があり、教員方の負担になってしまうこともあるので、教員方のフォローも必要だと思います。

【市長】①

社会情勢が不安定で先行きが見えない中、子供たちにとってどのような教育が必要か常に考えています。ただ授業を受けるだけの知識や技能の習得だけでなく、自らが課題を見つけ、行動できる教育環境をつくる必要があります。

また、太田市は外国籍の方が多いです。社会で生きていくためにも、しっかりと多様性を尊重し、違いを認め合える社会づくりを子供のうちから理解できるような教育が必要になります。

現在、太田市は教員を手厚く配置するように取り組んでいるところです。去年、文部科学省に直接伺い、加配教員を予算化していただけるようお願いに行き、今年度から20名ぐらい予算化することができました。市の予算だけで人件費等の対応は難しいため、予算要望をしながら、手厚い教育に取り組んでいます。

【参加者】②

移住してきて良かったと思います。移住者に向けて、魅力の発信として考えていることはありますか。

【市長】②

私も市長になってまだ1年ちょっとですが、これまで以上に移住者の方に来ていただけるようにPRを進めているところです。私も含めて、太田市についてまだ知らないけど、いいものであったり、いい場所の発信が少なかったのが、SNSでの発信を去年から始めたところです。

ほどよく東京に通える地域であり、自然や文化遺産、お祭りもありますが、世代関係なく多くの人が集まっていたらいいようなイベントの企画を進めています。

【参加者】③

子供が通っている小学校の図書館の本が少ないと感じました。

【市長】③

確認してみます。

No.4 ①おうかがい市バスの運行について②部活動について

【参加者】①

現在おうかがい市バスの最終便は午後4時となっています。私は、病院へ通院するためにおうかがい市バスを利用しますが、病院の診察が終わる時間は午後6時くらいになってしまいます。

そうなると帰る手段が限られてしまい、タクシーを利用せざる負えない時もあり、片道で2,000円以上かかってしまいます。月に何回も病院へ通院しなくてはいけない状況です。おうかがい市バスの運行時間の延長や土曜日の運行をお願いしたいです。

【市長】①

地域交通の見直しをするため、おうかがい市バスの利用調査を実施しているところです。アンケートの一部を見てみると、運行時間を変更してほしいという声があります。

本日頂いたご意見を踏まえて、今後見直しを検討させていただきます。

【参加者】②

全国ニュースで拝見したのですが、中学校の部活動が一部地域クラブになっていると伺いました。少人数で活動ができない吹奏楽部などのクラブを何校か集めて活動している市町村があると聞きました。太田市では検討されていますか。

【市長】②

少子化の影響で、山間部等の市町村ではこのような地域クラブとしての活動が広がっていると思います。子供たちの不利益にならないように進めていきたいと思います。

No.5 アーバンスポーツ施設の無料化について

【参加者】

施設の「無料化」が郊外において高い効果を発揮する理由は、第一に、「子育て支援」としての役割があり、「子育てしやすい街」という都市ブランドをつくる重要な戦略になります。

第二に、利用者同士の「コミュニティの力」を引き出せることです。上手い人が初心者に教えたり、利用者自身が掃除やマナー違反の注意を行ったりする、自主的な環境が生まれやすくなります。これは市の維持管理コストを劇的に減らすことができる、持続可能なモデルです。

次に、夏のコンクリートパークは熱の照り返しで日中は、熱中症のリスクが極めて高くなります。涼しい夜間開放が理想ですが、照明の電気代がかかってしまいます。そのため、「日の出からの早朝無料開放」を提案します。

さらに、市民の完全無償化を支えるための財源についてですが、安全確保をしたうえで、スケボーで体を動かす人たちのすぐ横で、ラジコンや小さな機械を走らせ、企業向けの実験場として収益化することで確保します。

若者のスポーツ文化と、機械への熱意を「禁止・排除」するのではなく柔軟に受け入れ、それを企業の実験の場へと直結させる。単なるスポーツ施設から進化させるこの決断こそが、これからの地方自治体に求められる持続可能なまちづくりの確固たる指針であると結論付けます。

【市長】

「無償化」という課題を実現するための企業収益としては、企業の看板収入などの方法も考えられます。また、維持管理の面でも経費が掛かっているのも、仰るとおり、持続可能な運営ができるかということ、とても大切な視点であると思います。

まずは、記念日など「無料の日」などを考えるなど、使う方の視点に立ったスケートパークづくりが必要であると考えています。